

# 感覚運動医学講座 歯科口腔外科学分野の紹介

ぜひ、福井大学医学部附属病院にて、初期臨床研修や専門医養成研修を受けていただき、臨床面での医科歯科連携や研究面での共同研究など、当科とも積極的な関わり合いを頂ければと思います。以下に当科の取り組みを記載いたします。

## 診療

臨床では、口腔外科疾患はもちろんのこと、有病者歯科治療や周術期口腔機能管理など、多岐に渡り幅広く取り組み、質の高い医療の提供を目指しています。口腔外科疾患では、地域の歯科医院や病院歯科口腔外科と連携し、高精度かつ低侵襲な治療を心掛け、入院期間の短縮と早期の社会復帰を目指した医療の提供に努めています。有病者歯科治療では、全身疾患を有する患者さんの増加に対応するため、医科歯科連携・病診連携の推進を図り、安全な治療の提供に取り組んでいます。周術期口腔機能管理では、他科に入院される方の早期回復・早期退院を目指した歯科医療の提供を心掛けています。

### 【1週間の診療業務】

|    | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  |
|----|----|----|----|----|----|
| 午前 | 外来 | 手術 | 外来 | 外来 | 手術 |
| 午後 | 外来 | 手術 | 外来 | 外来 | 手術 |

外来を週3日、手術日を週2日として、診療を行っています。

### 【初診患者の疾患別統計】

|           | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 良性腫瘍      | 35    | 56    | 62    | 61    | 99    | 78    | 86    | 76    |
| 悪性腫瘍      | 18    | 15    | 22    | 21    | 15    | 5     | 15    | 12    |
| 外傷        | 80    | 63    | 59    | 86    | 54    | 37    | 62    | 35    |
| 炎症        | 114   | 117   | 92    | 102   | 105   | 79    | 103   | 79    |
| 嚢胞        | 90    | 63    | 66    | 84    | 69    | 49    | 24    | 23    |
| 先天奇形      | 12    | 17    | 18    | 31    | 19    | 16    | 9     | 21    |
| 顎変形症      | 4     | 13    | 10    | 26    | 32    | 31    | 44    | 61    |
| 顎関節疾患     | 133   | 96    | 128   | 83    | 105   | 88    | 67    | 78    |
| 神経性疾患     | 6     | 9     | 12    | 9     | 31    | 31    | 13    | 9     |
| 口腔粘膜疾患    | 126   | 208   | 248   | 310   | 342   | 289   | 635   | 142   |
| 唾液腺疾患     | 8     | 7     | 5     | 12    | 5     | 11    | 17    | 9     |
| 埋伏歯・智歯    | 384   | 433   | 390   | 447   | 408   | 418   | 488   | 386   |
| う蝕・歯周病、義歯 | 685   | 763   | 678   | 789   | 942   | 945   | 836   | 1267  |
| その他       | 40    | 37    | 25    | 35    | 11    | 13    | 27    | 17    |
| 合計        | 1735  | 1897  | 1815  | 2096  | 2237  | 2090  | 2426  | 2215  |

|  |                   |
|--|-------------------|
|  | : 口腔外科疾患          |
|  | : 有病者歯科・周術期口腔機能管理 |

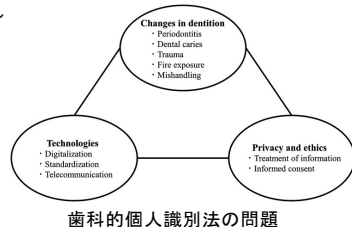
2019-2022年には、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、有病者歯科や周術期の口腔機能管理が必要な方は、増加傾向にあります。口腔外科疾患では、顎変形症の治療依頼が増加傾向にあります。

## 研究

口腔外科の課題を学びながら研究手法を習得し、口腔外科学の発展に繋がる研究に取り組んでいます。基礎講座や臨床関連各科と連携し、新しい着眼点での研究も行っています(以下に、連携を図り実施した研究例をお示します)。臨床面での疑問を基礎研究で解明し、また基礎研究で見出したことを臨床研究で実証できればと考えています。得られた研究の成果は、世界に向けて積極的に発信できるように取り組んでいます。海外への留学も支援しており、グローバルな視点を持った医療人の育成を目指しています。

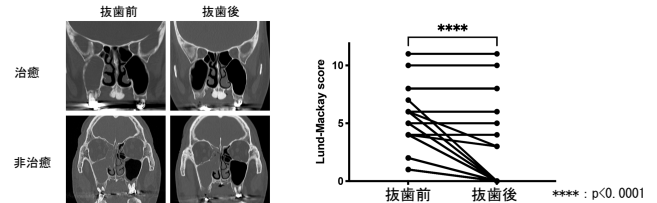
### 【歯科的個人識別に関する研究】

指紋に代表される身体の情報、個人識別において重要な情報を提供します。コロナ禍における社会の分断や、高齢化の進行は、身体の情報による個人識別の重要性を増したものと考えられます。歯列、歯科治療跡などの情報は古くより個人識別に用いられてきましたが、デジタル技術を用いた世界中で応用し得る歯科的個人識別法は報告されていません。われわれは、本学工学部と連携し、歯科画像情報とconvolutional neural networkを用いた個人識別法の開発を試みました。今後、人工知能を応用した新たな技術開発により、歯科的個人識別の客観性と汎用性の向上が望まれます。



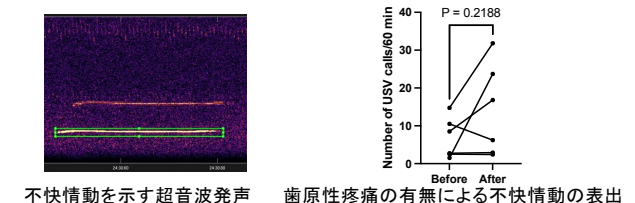
### 【歯性上顎洞炎における抜歯と治療に関する研究】

歯性上顎洞炎は、歯性感染が上顎洞内に波及し副鼻腔炎を発症する疾患で、日常臨床においてよく遭遇する疾患ですが、その診断と治療方針についてはコンセンサスが得られていないのが現状です。そのため、当科と耳鼻咽喉科・頭頸部外科にて共同で、歯性上顎洞炎の治療方針に関する臨床研究を行いました。CT画像スコア(Lund-Mackay(L-M)スコア)を用いて、歯性上顎洞炎の進展範囲と感染歯の抜歯による改善効果を検討しました。歯性上顎洞炎の治療として、抜歯を選択した患者のL-Mスコアを比較したところ、抜歯前後のL-Mスコアに有意差が認められました。



### 【歯原性疼痛に対する不快情動に関する研究】

動物モデルにおける疼痛の客観的かつ定量的な評価は、歯原性疼痛のメカニズム解明や最適な治療法の開発に必須です。ラットは主に20-90kHzの超音波発声(SUV)を用いて社会的相互作用や情動表現を行っていると考えられ、特に不快情動に関連し、特徴的な超音波発声を行うとされています。そこで当科では、口腔顔面痛の指標として、ラットの超音波発声に着目し、脳形態機能学分野と共同で、その評価・解析基盤の確立と、実際に歯髄炎モデルラットによる評価を行っています。



不快情動を示す超音波発声 歯原性疼痛の有無による不快情動の表出

## 教育

高い倫理観を持ち、患者中心の全人的および包括的な歯科口腔外科医療を行える力を養うことを、目標にしています。また、信頼性の高いエビデンスに基づいた口腔外科の専門的治療を提供できる、臨床医の育成を目指しています。当科の在籍者は新卒者に限らず、他大学・病院・歯科医院勤務経験者など、多彩な顔ぶれとなっています。設備や環境も整っており、自己研鑽の時間も確保できる状況です。

## まとめ

超高齢社会となり、要介護状態となっても住み慣れた地域で生活できるように、地域包括ケアシステムの構築が進められています。このような社会の変化において、歯科医師は、歯科治療だけでなく、医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員等の、他職種との連携による医療の提供が求められています。チーム医療・地域医療・多職種連携を実践できる、また多様なニーズに対応できる歯科医師を目指す上でも、医学部附属病院での研修は極めて有用であると考えています。当施設での研修を希望される歯学部卒業生には、入局してより良い医療人として成長して頂けるように取り組んでいます。

## 教室の目標

- ・自身の最善を尽くし、常に高い水準を求め続けていく姿勢を持ちながら、責任感と思いやりを持った歯科医師となり、社会に貢献する。
- ・歯科口腔外科学を基に、生命現象について深く探求する。

